



三谷の草庵に一光三尊佛を安置される「親鸞聖人正統伝絵伝」より



五劫と十劫

鑑学 小妻 道生

真宗高田派の門信徒の間では、一番よく浸透している偈文は文類偈である。高田派以外の真宗各派では正信偈が多く用いられているようであるが、高田派では文類偈である。両偈を考察してみると、正信偈の方が時期的に先に成立し、文類偈はその後である。正信偈成立の後を受けて、その不完全なところを補って再構築なさったのが文類偈である。したがって文類偈の方が本願のお心により近いと、ひそかに思案をめぐらせている。

は、諸仏が浄土を建立しようと懸命に努力なさっているお姿、それはそれで誠に尊いけれども、その救いの網から落ち零れている衆生が沢山いることをごらんになり、また娑婆世界の善からも落第し悪人のレッテルを貼られて苦しんでいる衆生がいることを知り、それら落ち零れの人々をことごとくすべて救済する道はなきものかと、思惟に思惟を重ねられた。それに要された歳月が五劫であったといわれている。

この娑婆世界には老若男女、西洋の人、東洋の人と種々雑多の人々がいる。マスコミの報道によれば、最近、ノーベル賞に二人の日本人が選ばれたとか、そのような人々もおられる反面、その日その日の生活に追われ、自ずと悪を犯してしまう人々もいる。それらすべての人々をことごとく平等に撰取る道を



が、名号が見出されるまでに要した月日（五劫）の倍の歳月であることに注目したい。名声の成果が確認せられるに要する十分な歳月である。

五劫にしても十劫にしても、いずれも劫の単位で表示せられている。劫とは先に示した如く無限大を表示する単位である。名声が十方に響きわたっているのは、何時からと限定することが出来ない。それは名が声となり、人々が安心立命することは、それが真理、まことであるからである。身近なことでは、一十一二、これは何時からこうなったとはいえない。無始以来である。何故ならそれが真理、まことであるからである。

名声が五劫、十劫の言葉を添えて表示せられている。それは南無阿弥陀仏と口で称することがいかなる時でも、いかなる場でも、我々を本当に安心立命させる唯一の道であることを証明している。名声が真理であることを、まことであることを指し示しているのである。

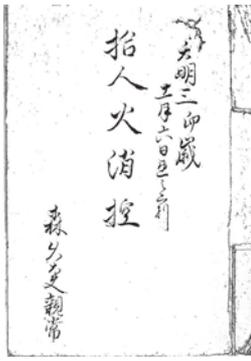
発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

御対面所と「拾人火消」

御対面所の修理が始まっています。御対面所は、延享二年（七四五）焼失後、宝暦十一年（七六二）再建。天明三年（七八三）に再び焼失し、天明六年（七八六）再建されて現在に至っています。とくに、天明三年の境内大火については、寺内町の庄屋であった森久太夫親常が記録した「拾人火消控」が残されています。当時の様子を伝えていきます。



一上月廿五日三刻御対面所焼失
御対面所焼失後、森久太夫親常
御対面所焼失後、森久太夫親常
御対面所焼失後、森久太夫親常

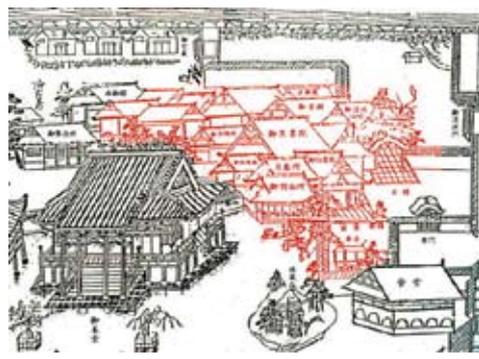
報恩講の準備に慌ただしい十一月六日の午前三時、森久太夫は「御清所（台所）より出火に付き、御清所・書院・玄関・御表様・御裏様御殿内は残らず御焼失。西御殿、御蔵々残り申し

候」、「西御殿御廊下にて消留。御堂は火よけにて火留まり申し候。西御殿消口、森久太夫それより御月番所消鎖。それより御書院焼残り跡消鎖申し候。七日、辰の半刻火鎖まり申し候」と記していますから、知らせてを受けて直ぐ御清所門をくぐり御殿に駆け付けると、火の手はすでに御居間から北御殿へ、あるいは黒書院へと達している、いちばん北にある御宝蔵門から入って、西御殿裏の御宝蔵前の広場にて消火作業に就いていたようです。また、「御堂は火よけにて火留まり申し候」と述べていて、寛文六年（二六六〇）の御影堂再建のとき、御堂に至る廊下の途中に「火除け蔵」という防火壁を設けていたので、これが奏効して御堂へは延焼しなかったことが判明します。

この後、森久太夫には次のような御上の意向が伝えられています。

「左の通、この度、手前（森久太夫）へ仰せ付けなされ候。一、この度、早速駆け付け出精いたし、かつまた、早速、御飯米

献上いたし候段、御上には気毒（奇特の当て字か）に思し召しなされ候に付き、このたび褒美として、菊の御紋付きの居（纏）御免、並びに組付き十人仰せ付けなされ、御山内火消役仰せ付けなされ候」とあり、鎮火の褒美として本山火消組の頭に任命されています。



この「拾人火消」という名は、明暦三年（二六五七）正月に江戸城天守閣や市中を焼き尽くした大火の翌年、幕府が江戸城下に設置した「定火消」という火消組の別名で、十カ所に火消屋敷を設け、その管理を旗本から選んだ火消役に任せたので、「拾人火消」と称したことに由来しています。つまり、本山専修寺の御上から直々に任命されたとい

う格式の高さをあらわす名前、的居・幟・高張提灯には、本山を示す菊の大紋と火消組頭である森久太夫の小さな紋を付けていたようです。また打方道具（当時は延焼を防ぐため建家を打ち壊す破戒消防です）として、梯・突倒斧・葦縄・鳶口などを新規に備えたことが記されています。ただ、今と異なるのは、その火消道具の費用や消火にたずさわる雇い人足の手当は、すべて庄屋の負担でした。現在の本山境内には文化財に指定されている建物が多く、防火設備には国や自治体の補助金が投入されています。しかし、この史料から垣間見ることが出来る江戸時代の防火体制は、寺内町にとつてかなり負担の多いものであったようです。ともかく、「拾人火消」の創設により防火意識が高まったことは確かで、明治三十年の貫鉄教校の火災まで山内に目立った火災の記録はありません。

（宝物館主幹 新 光晴）

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋤金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風

御本山絵所

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

リレー法話

弥陀の錦繡

松田 信慶

今年もまた紅葉の季節が巡ってきました。

異常気象という言葉が、テレビのニュースなどを通して聞くことが多くなりましたが、それでも日本の四季は、私たちに季節の移ろいの素晴らしさを与えてくださっています。そして、古くよりその素晴らしさを称える言葉をも、私たち日本人の心に育んでくださいました。

この紅葉の季節を表す古くからの日本語に、「錦繡」という言葉があります。この言葉は、紅葉の木々が連なっていて、まるで錦の織物のように美しい、そのような秋を表した言葉で、「錦秋」とも書き表されるそうです。

私が学生生活を送らせていただいた、およそ二十数年前の京都では、特に、西陣辺りを散策していると、紅殻格子の町家のあちらこちらから、カタコトと機織りの音が聞こえていました。生まれたときから当たり前のように、衣類工場で作られ

た洋服を着ていた私にとつて、繭から糸をより、縦糸、横糸を走らせながら一枚の錦に仕上げている風景は、新鮮そのものでした。そのことを今、思い返しな

きたわけではありません。だからこそ、生まれて後の御縁によつて、今のお一人お一人がそこにいらつしゃいます。お釈迦様でさえ、その点につきましては同じであります。それゆえに、「四門出遊」という御出家の御縁の後、私たちの生まれてからの生きる苦しみを御救いになるために仏様になりました。

ここで、私が申しますところの「横糸」とは、まさに親鸞聖人の御教えを賜わっておられるお同行の方々であります。御本山の日々のお勤めに御参集の、また、各お寺様の御法要の際にお隣にお座りになられる、その方々であります。

御存じのように、お一人お一人に違いがございます。生まれる時を知らないのと同じく、私自身の臨終の時も定かではございません。その私が、在家と呼ばれる家庭に生まれた子供の頃、少年の頃、そして「今」の私を想いますと、親鸞聖人が『教行信証』の総序でお著しになられた「：遇いがたくしていま遇うことを得たり：」の御言葉を金の「縦糸」のように、心より頂戴させていたたくい思いであります。また、このように『高田本山だより』を通じて、お手に取つて拙文をお読みになつてくださっているお同行の方々のお姿を、直接目には見えなくとも、「横糸」に感じさせていた

私たちが二人一人は、「どのよう

な親」の「どのような家庭」に生まれたら、予め願つて生まれて

す。この私がどこまでも「たった一人の私」だと考えがちになる時代であります。そのような「今」を生きているからこそ、もう一度、阿弥陀様の御慈悲、そして、すぐそばにいらつしゃる頼もしいお同行の方々のお姿を思い返してゆきたいと思つています。

合掌

(和歌山市 崇賢寺住職)

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達
京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式会社

SHIBEN STONES 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎059-331-4114
サイト: コイイン

報恩講のご案内

平成二十三年本山報恩講を厳修いたします。

皆様お誘い合わせの上、どうぞ賑やかにご参詣下さい。

一月九日(日)

◆お七夜高田派青年大会

午前十一時より宗務院にて受付。

◆お七夜子ども大会

高田高校仏青インターアクト部のお兄さん、お姉さんたちの楽しいアトラクションがごさいます。お気軽にご参加下さい。

十三時より宗務院二階で受付。

十四時より式典・アトラクション。式典後、献書展表彰式。

一月十日(月)

◆新成人の集い

本山中で成人のお祝いをしませんか。平成二十三年に新成人になられた方はどなたでもご参加いただけます。成人された記念にどうぞ本山へお越し下さい。記念品を差し上げます。

十二時より宗務院一階にて受付。



一月十一日(火)

◆責任役員会

十時より御影堂前にて受付。お日中、お説教聴聞に引き続き、大会がごさいます。

一月十二日(水)

高田学苑報恩講参拝

◆お七夜婦人連合会

十二時より御影堂にて。

一月十三日(木)

◆特別講演

輔講 梅林久高師
午前九時より如来堂におきまして講演がごさいます。どうぞご聴講下さい。

高田短期大学報恩講参詣

一月十四日(金)

◆特別講演

鑑学 栗原廣海師
午前九時より如来堂におきまして講演がごさいます。どうぞご聴講下さい。

◆他山御焼香

午前十時より御影堂にて京都の西本願寺様より門主様のご代香がなされます。

高田保育園報恩講参拝

◆お七夜坊守会

十二時より御影堂にて。

一月十五日(土)

◆法主褒賞式

午前十一時三十分より御影堂にて。

◆お七夜婦人連合会初夜参詣

午後十一時からおつとめがごさいます。

◆後夜(ごや)

この日は後夜のおつとめが終わるまで門が開いています。どうぞご参詣下さい。

一月十六日(日)

◆御参願

午前九時より。

その他の行事

◆献書展

一月九日～十六日

◆生花展

一月十日～十五日

◆呈茶

呈茶券をお求めの上お越し下さい。

一月九日～十五日 十時から十五時 有慶堂にて。

◆安楽庵見学

ご見学をご希望の方は進納所にお集まり下さい。

一月九日(十四時)

一月十一日(十五日)

一月十六日(十一時)

◆宝物館特別拝観

ご自由に拝観していただけます。

一月十日～十五日 (十時～十五時)

一月十六日 (十時～十三時)

(十日から十五日まで、十三時から宝物の解説がごさいます。)

◆お尋ねコーナー

仏事の相談事をうけたまわります。

一月十日～十五日 十時～十五時

宗務院ロビーにて。



武田龍精編

往生論註出典の研究

論大綱/総説/偈文/觀察門/廻向門/解義/総説/起観/生信/觀察/体相/淨入/願心/善巧/攝化/離苦/提障/順菩提門/名義/撰對/願事成就/利行/満足/總結/釈の論集/参考文献略記(一覽外) 定価9000円税込

林 智康著

親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲/前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ/世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ外 定価1300円税込

北畠見融著 仏道を学ぶ

定価1680円税込

普賢保之著

本当の幸せとは

—自己を見つめて— 定価1000円税込

無名会同人編

仏と人 47

定価410円税込

松岡秀隆著

蓮如上人の門弟の人々

定価2500円税込

山崎龍明著

歎異抄とともに

定価1050円税込

永田文昌堂

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
FAX 0755-33511・665511
TEL 0755-33511・665511
編 010-200-49336



専修寺(本寺)の護持を真仏上人に託す「親鸞聖人正統伝絵伝」より

親鸞聖人のご生涯シリーズ⑮

関東から京都へ

お念仏に無縁であった関東の地に、念仏の種を蒔かれた親鸞聖人の教えは、高田門徒をはじめ各地に大きく広がっていきました。

しかし、関東に入られて約二十年、親鸞聖人六十三歳の頃、関東の地を離れ京都に帰られる決心をされました。親鸞聖人は帰洛にあたり、専修寺(本寺)の護持を真仏上人(第二世)に委ねられ、少数の弟子をとまなわけて行脚の足を京都に向けながら、東海道の旅を続けられたのです。

関東を後にした親鸞聖人は、箱根路を通り、各地でお念仏の教えをひろめながら、文暦二年(一二三五年)三河(愛知県)に入られ矢作川流域のとある太子堂に逗留されました。この地域は太子信仰の盛んな所で、この地域に住む人々は各地に太子堂をつくり、聖徳太子像を安置し信仰していました。親鸞聖人はそんな太子堂の一つで、岡崎の妙源寺に十七日間逗留さ

れお念仏のみ教えを説かれました。

当時、この太子堂の前に柳の大き木があったので、里の人々は「柳堂」と呼び親しんでいました。柳堂に腰をおろされた親鸞聖人は、お念仏の教えを諄々と説かれました。

人々は親鸞聖人のお念仏の教えに敬服して、真宗に帰依していきました。この柳堂は現在国の重要文化財に指定され、三河念仏発祥の地として多くの参詣人で賑わっています。

この三河地方は、後に高田の真仏上人、顕智上人(第三世)、専信上人等も精力的にお念仏の教えをひろめられた所で、次第にお念仏の輪がひろまっていきました。

三河を発たれた親鸞聖人は、やがて近江(滋賀県)に入られ木部の錦織寺に寄られて、京都に向かわれたのでした。

(教学院第三部会)

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせ・ご注文は

※ご自宅までマイクロバス(送迎5名より14名様まで)

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



人気商品 高田本山流 精進料理



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

親鸞聖人七百五十回忌
真宗教団連合四十周年記念

親鸞

SHINRAN

教

展

平成二十三年（二〇一一年）には、浄土真宗を開いた親鸞聖人の七百五十回忌を迎えます。阿弥陀如来の力がすべての人々を救うという親鸞聖人の教えは、苦しみや悩みを抱えた多くの人々に光明をもたらしてきました。浄土真宗は、今も国内最多の門信徒数を誇っています。物質が豊かになった現代社会では、ともすれば心の問題が置き去りにされ、命の大切さが忘れ去られる風潮がうかがえます。親鸞聖人七百五十回忌を機に、改めて聖人の足跡をたどり、今に残る多くの資料、法宝物を紹介する展覧会を京都市美術館にて開催します。この機会を通じて聖人の教え、人となりを改めて浮かび上がらせ、混迷の現代、さらには将来への指針としたいと思えます。

親鸞聖人のすべてがここに！



親鸞聖人坐像 専修寺蔵、国宝 教行信証(坂東本)部分 東本願寺蔵 「親鸞」自筆は重要文化財 尊号真像銘文 専修寺蔵より

第1章 親鸞聖人の教えと生涯

●国宝 ●重要文化財 □県指定品 ○市指定品

日本仏教史上に大きな足跡を残した親鸞。親鸞の人物を今にしのぶ「御影」と呼ばれる肖像画や坐像、ありし日の肉筆を中心に、その波乱にみちた生涯と教えの特質を紹介します。中でも親鸞の主著として知られる「教行信証」は、インド・中国・日本の高僧の説を読み解き、浄土に生まれる教えの系統を明らかにしたものと知られています。

主な出陳予定品 親鸞筆十字名号(専修寺)、親鸞筆八字名号(専修寺)、親鸞筆六字名号(西本願寺)、●鏡御影(西本願寺)、●安城御影(正本・副本、西本願寺)、●安城御影(東本願寺)、●熊皮御影(奈良国立博物館)、親鸞御影(左向/専修寺)、親鸞聖人絵伝(愛知・願照寺)、●教行信証(坂東本/東本願寺)、●親無量寿経註(西本願寺)、●阿弥陀経註(西本願寺)、●加日本浄土論註(西本願寺)、浄土三経往生文類(興正寺)、●唯信鈔(専修寺)、●一念多念文意(東本願寺)、●尊号真像銘文(専修寺)、●見聞集(専修寺)、●浄肉文(専修寺)、太子和讃(東本願寺)、浄土文類聚鈔(東本願寺)、●三帖和讃(専修寺)、●親鸞聖人書状類(西本願寺)、親鸞聖人消息(東本願寺)、●慈信房善鸞義絶状(専修寺)、□親鸞聖人坐像(専修寺)、●親鸞聖人坐像(新潟・西照寺)、●親鸞伝絵(康永本、東本願寺)、恵信尼絵巻(京都・龍谷大学)、●恵信尼書状類(西本願寺)、●歎異抄(蓮如筆、西本願寺)

第2章 浄土真宗のひろがり

初期真宗にスポットをあて、親鸞面門の門弟たちの足跡やその活動について紹介します。また、親鸞にかかわるひとびとが、善光寺などの念仏系聖として活動していたことをしるせる遺品や、初期真宗で特に尊重された聖徳太子信仰のありさまなどを紹介しています。

主な出陳予定品 光明本尊(毫摺寺)、一尊十二光仏稱念曼荼羅(誠照寺)、奥野家伝来光明本尊厨子(佛光寺)、●九烈祖御影(専照寺)、●絵系図(一流相承系図/佛光寺)、●善然房坐像(三重・太子寺)、了源上人坐像(佛光寺)、●幕婦絵詞(西本願寺)、●聖徳太子立像(佛光寺)、□熊野垂迹愛曼荼羅(錦織寺)、●善光寺如来絵伝(愛知・本證寺)

第3章 伝来の名宝と美術

浄土真宗の門流ははたに多くの人々の支持を得て、信仰の潮流となり、やがては堂舎を構えた寺院としてひろがっています。伽藍の造営は桃山時代以降、狩野探幽など狩野派の系譜をひく絵師の活躍の場となり、さらには望月玉泉など近代京都画壇へとつらなる絵師たちが数々の名品をうみだす京都文化の発信基地ともなりました。

主な出陳予定品 ●三十六人家集(西本願寺)、●慈円書状(専修寺)、●雪中柳鶯図(西本願寺)、唐獅子牡丹図(望月玉泉筆/東本願寺)、波濤大蔵図(久保田米傳筆/東本願寺)、雲龍図(狩野探幽筆/興正寺)、散華(竹内栖鳳筆/京都市美術館)

*作品保護のため、会期中に展示替えを行います。また、出陳予定作品は今後変更となる可能性があります。

2011年3月17日[木]—5月29日[日]

開館時間＝午前9時—午後5時(ただし入場は4時30分まで)

主催＝京都市美術館、真宗教団連合、朝日新聞社

京都市美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124



親鸞展



国宝 教行信証(坂東本) 東本願寺蔵



重要文化財 絵系図(一流相承系図) 佛光寺蔵



国宝 三帖和讃 専修寺蔵



浄土三経往生文類 興正寺蔵



重要文化財 雪中柳鶯図 西本願寺蔵



重要文化財 歎異抄 蓮如筆 西本願寺蔵



唐獅子牡丹図 望月玉泉筆 東本願寺蔵

親鸞展 特別鑑賞引換券

左記引換券は親鸞展の特別鑑賞にご利用いただけます。
切り取ってご使用ください。

親鸞展 特別鑑賞料金について

真宗教団連合の各宗派には以下の特別鑑賞料金が適用されます。
特別鑑賞引換券を持参の上、寺院関係者用窓口で料金をお支払いください。

一般 900円 高大生 700円 小中生 300円

利用上のご注意

- ①この券は団体でのご使用、個人でのご使用いずれも可能です。個人でのご使用の場合は団体名の記入は不要です。代表者名のみご記入ください。
- ②下記券面の空欄の部分に必要事項を記載してください。本券に人数分の所定料金を添えて寺院関係者用窓口へ提出してください。
- ③10名以上でのご来館、あるいは貸切バス利用でのご来館の場合は、事前に下記親鸞展事務局まで入館利用日時のご連絡いただくことにより、入館当日の窓口混雑状況、バス乗降の混雑状況をお知らせいたします。それ以外のご来館の場合は事前ご連絡は不要です。
- ④10名以上でのご来館、あるいは貸切バス利用でのご来館の場合、事前の利用日時のご連絡がない場合には、入館当日、ご利用時間等を調整させていただきます場合があります。
- ⑤「親鸞展」の会場である京都市美術館は、通常月曜日(祝日を除く)は休館日となります。「親鸞展」の団体鑑賞を希望される場合は、事前に団体鑑賞申込をしていただくことにより、休館日でも入館いただけます。しかし、4月4日(月)、4月18日(月)、5月2日(月)は展覧会運営上の理由により、入館できません。
- ⑥領収書が必要な場合は、入館時にお申し出ください。

問合せ先：朝日新聞社 親鸞展事務局

TEL: 06-6131-3626 FAX: 06-6131-3627

〒530-0046 大阪市北区菅原町11-10 オーキッド中之島301号

(平日9:00~17:00/土日祝休/ただし3月1日以降、会期中は無休)

親鸞聖人七百五十回忌
真宗教団連合四十周年記念

親鸞展

生涯とゆかりの名宝

2011年3月17日(木)~5月29日(日)

開館時間 午前9時~午後5時(ただし入館は4時30分まで)
休館日 月曜休館(3月21日は開館)

主催 京都市美術館、真宗教団連合、朝日新聞社

京都市美術館

〒6068344 京都市左京区岡崎門勝寺町1-2-4(岡崎公園内)



親鸞展

本寺専修寺 開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会
 平成二十三年四月二日(土)~四日(月)
 栃木県真岡市高田四八二 電話〇二八五七五〇一〇三

寺院名

親鸞展 特別鑑賞引換券

[団体用・個人用]

この券は、団体・個人いずれでもご利用いただけます。空欄の部分に必要事項を記入して、鑑賞当日に美術館の寺院関係者用窓口にて料金とともに提出してください。10名以上あるいは貸切バス利用の場合は、事前の「入館ご連絡」をお勧めいたします。

団体名	<input style="width: 90%;" type="text"/>	宗派名	<input style="width: 90%;" type="text"/>
代表者名	<input style="width: 95%;" type="text"/> 殿		
利用日時	2011年 <input style="width: 20px;" type="text"/> 月 <input style="width: 20px;" type="text"/> 日 <input style="width: 20px;" type="text"/> 時 <input style="width: 20px;" type="text"/> 分頃		
受付人数	大人 <input style="width: 20px;" type="text"/> 人	高大生 <input style="width: 20px;" type="text"/> 人	小中生 <input style="width: 20px;" type="text"/> 人
	合計 <input style="width: 20px;" type="text"/> 人		
利用交通機関	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> 公共交通機関		

●下記に表示された料金は真宗教団連合の各宗派向け料金です。
一般900円 高大生700円 小中生300円

●本券を、入館当日京都市美術館の寺院関係者用窓口にて提示してください。精算後、入館いただけます。

●個人でのお申込の際は団体名は不要です。代表者名のみご記入ください。

●領収書が必要な場合は入館時にお申し出ください。

問合せ先：親鸞展事務局
TEL: 06-6131-3626 FAX: 06-6131-3627
大阪市北区菅原町11-10 オーキッド中之島301号 (平日9:00~17:00/土日祝休/3月1日以降、会期中無休)



親鸞展